

## 私の教育実践 ～みがき合い、未来を切り拓く番町っ子の育成～

松山市立番町小学校 校長 仲 公一

### 1 はじめに

本校は、創立 138 年の歴史と伝統を誇る学校であり、正岡子規、高浜虚子、河東碧梧桐等の数多くの俳人や秋山真之等の有為な人物を輩出しています。また、本校は、愛媛県庁や松山市役所、銀天街や大街道商店街等が立地する市内中心部に位置し、電車やバス等の交通の便が良いところにあります。



令和 6 年 5 月 1 日現在の児童数は 328 名、学級数は、14 学級（うち特別支援学級 2 学級）です。児童数減少に伴い、平成 17 年度より、松山市全域から児童を募集しており、近年は、全児童の約 40%程度が校区外より公共の交通機関を利用して通学しています。学校教育に関心の高い保護者が多く、参観日や学校行事には多くの保護者が来校されます。これまで赴任してから 2 年近く、教育目標の具現化に向けて私が力を入れて取り組んできた実践の一端を紹介させていただきます。

### 2 本校での取組

#### (1) 三つの「みがく」を基盤とした学校づくり

本校では、「みがく」という言葉を大切にしており、各教室の前面に校訓のようにその言葉を掲げ、次の三つの「みがく」について、機をとらえ教職員一丸となって子供たちに指導しています。一つ目は「こころ」、二つ目は「からだ」、三つ目は「あたま」です。このうち、「こころをみがく」ことを特に重視し、校長講話でも度々話題にしています。本校の大先輩である正岡子規さんや、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手などを取り上げ、自分の生き方について考えさせたり、学校生活の一場面を題材に、自分の状況を振り返り今後の在り方について考えさせたりしています。

また、「みがっきートレーニング」と称する活動を継続実践しています。本活動は、児童のよりよい人間関係を築いたり、自己有用感を高めたりするとともに、対話的な学びの充実を図ることをねらいとしています。各学年の「みがトレエクササイズ」年間計画をもとに、その時々の児童の状況に応じた適切な題材を学年で選び、様々な友達と交流して相互理解を深めたり、自分で気付かなかった自分のよさに気付いたりできるよう工夫しています。

#### (2) キャリア教育の推進（小小・小中連携教育の推進）

本校は、平成 23 年度に松山市の「幼保小中連携教育推進事業研究指定校」となり、4 年間近隣の 2 小学校及び 1 中学校とともに、小中連携教育に取り組んできました。その後平成 27 年度からは、「研究推進校」として小中連携教育を更に推進し現在に至っています。子供たちに学ぶおもしろさや学びへの挑戦の意味を体得させたり、生涯にわたって学び続ける意欲を向

上させたりするために、経験の連続性を保障するカリキュラム開発や長期的な展望に立って子どもを育てる連携教育推進に取り組んできました。令和5年12月に行った6年の総合的な学習の時間「働くということ」の授業では、えひめFC取締役、元警察署長、小動物臨床獣医師、ジャズドラマー兼マジシャンの4名をゲストティーチャーとしてお招きしました。その際、私も教員の代表として、これまでの自身の歩みを基にプレゼンテーションを作成し、児童に教師という職の魅力ややりがい等について自分の熱い思いを伝え、共感を得ることができたと感じています。

### (3) 地域等の資源を生かした豊かな教育活動の展開

冒頭で記したように、本校は数多くの有為な人材を輩出するとともに、市の中心部に立地していることなどの特色を生かし、生活科や社会科、総合的な学習の時間において様々な体験的活動を行っています。その中でも本校は、その前身となる学校が、久松定謨伯爵から多大な援助をいただいたというご縁から、東京都中央区立久松小学校と交流学习を行っています。両校とも4年生が、総合的な学習の時間に調べた地域のことや人物等について、オンラインで互いに成果を報告し合っています。今年度は、6月に久松幼稚園の園長先生が本校を訪問してくださいました。また7月には、私が東京出張の際に久松小学校を訪問させていただきました。交流時には、私が久松小を訪問した時の写真を紹介しました。双方の児童はかなり驚き、現実につながっているという実感をもつことができたのではないかと考えています。

### (4) 教職員と思いを一つにした学校経営

学校の教育活動を円滑に推進する原動力は、教職員です。子供ファーストは当たり前ですが、同じように「教職員ファースト」も大切だと考えています。本校も含め、現在の学校が抱える課題は、「チーム学校」で対応しなければ解決が難しいことばかりです。そこで、主に次のようなことを年度当初に全教職員で共有し思いを一つにした学校経営を行ってきました。

- 何事があっても教職員は一枚岩で、同じベクトルを共有して
- 学校全体で指導すべきことは、全教職員で歩調をそろえて
- 平時は、先生方からボトムアップで、有事は管理職がトップダウンで
- 「これくらい大丈夫…」でなく、「本当に大丈夫かな…」少し心配症で

## 2 おわりに

私の管理職としての実践の根底には、「教職員ファースト」という強い思いがありました。つまり、全ての教職員がやりがいを感じながら安心して教育活動に携わることができるよう、状況に応じてしなやかにリーダーシップを発揮してきたつもりです。しかし、その成果が表れているとは言えない面もいろいろとあります。本校では、学校のプール跡地に愚陀佛庵が建設予定となるなど、今後も更に特色ある教育を発展・深化できる可能性が広がっています。これまで苦楽を共にしながら頑張ってきた先生方が、今後も「チーム番町」の一員としての誇りと自信をもち、今後の学校運営や特色ある教育活動に積極的に参画してくださることを心より願っています。